

あいづわかまつ 文化財だより

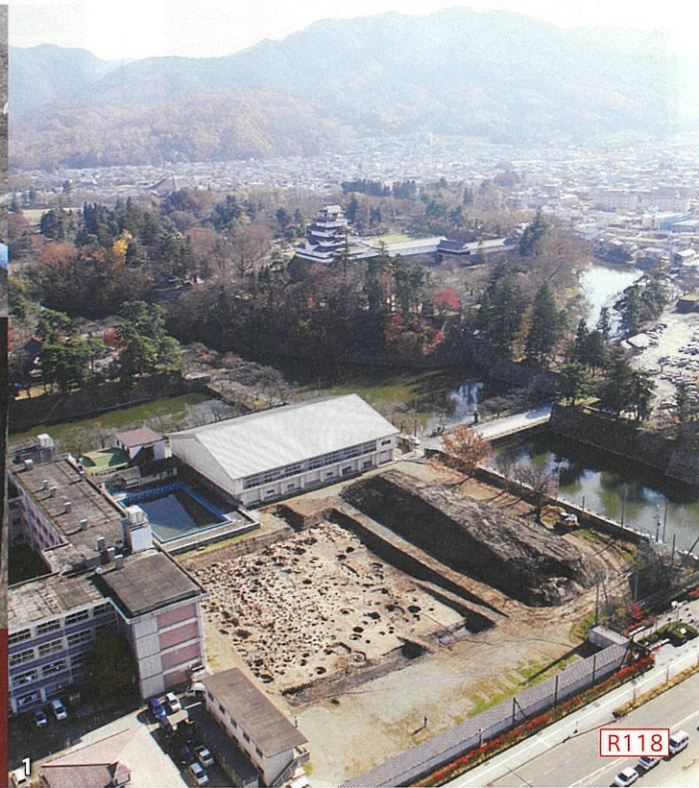
発行
会津若松市教育委員会
編集
会津若松市教育委員会文化課
〒965-0871 会津若松市栄町5番17号
☎0242-39-1305

第19号
平成24年4月1日
(2012)

受け継がれ引き継いでいく文化財の今を情報発信



1 発掘調査場所を空から眺める。
2 井戸跡は直径80~120cmの円形で、河原石を下から筒状に積み上げている。
3 多数の建物の柱穴のなかに火の見櫓の基礎と思われる柱穴が見つかった。
4 若松四中の職場体験学習。
5 10月30日に開催した現地説明会。歴史ファン150名が訪れ熱心に見学。



この場所は、江戸時代の主要道路であった「本一丁」と「大町通」が交差する場所であり、藩の施設としても、西出丸・北出丸の防御地点としても重要な場所でした。

文献によると、蒲生氏の頃までは犬を追った弓の練習場所、加藤氏の時に屋敷地、保科時代に藩の工事を設計し工事係に割り振る「割場」となりました。また出火の際に藩士が集合する場所で、火の見櫓も建てられていました。

調査では、建物の柱穴、井戸跡、土坑、堀跡などを確認しました。なかでも約30基の井戸跡は、飲料用の井戸は少なく、多くは防火用水と思われるのが特徴です。また、上幅4m・深さ2mの大きな堀跡が現在の道路とほぼ並行して確認できました。土層から江戸時代初めの街の区画に関係するものと考えられます。

これまで、江戸時代の遺跡としては、武家屋敷跡の調査は数多く行われており、屋敷内の遺構の配置などがわかるようになってきました。しかし、「割場跡」のような藩の施設としては、今回が初めての調査となりました。

調査では「割場跡」を直接示すような資料を確認することはできませんでしたが、明らかに武家屋敷跡とは違った状況を確認することができました。

「割場跡」発掘調査 —旧福島県立学鳳高校グラウンド—

鶴城小学校仮校舎建設予定地のため、8月~12月に約2,500㎡の発掘調査を行いました。



発掘調査の成果は、当時書かれた絵図と類似する部分が多く、城下の様子を知る良い資料となるでしょう。

(仮称)歴史資料保管センター 旧会津図書館3階[城東町]

会津若松市史等を販売



詳しくは市HPでご覧になれます。ビジュアル市史のページから市史研究会のHPを見ることができます。

既に完売した会津若松市史に
関係する本や市史の収集資料を
見ることが出来ます。ビジュアル市
史は、写真や絵図をふんだんにわ
かりやすく、歴史・自然文化・民
俗と幅広い内容にとまどめた、
新しいスタイルの市史です。
また、市史研究会では次世代に
貴重な史料を残すため、収集所
蔵資料の解説や会津地方の古文
書の調査や整理を行っています。

第58回文化財防火デー 1月26日

国史跡 若松城跡



1・2 はしご車などを使った給水訓練。
3 防火査察による点検。

防火デー当日は、通報訓練、重要文化財の搬出、ポンプ車による放水訓練などが行われました。また、1月24日には市内9ヶ所の文化財指定の建物等において防火査察が行われました。

1月26日は、昭和24年に文化財保護法制定の契機となった法隆寺金堂壁画が焼損した日です。昭和30年にこの日を「文化財防火デー」と定めました。

この日は貴重な文化財を火災などから守るための記念日です。市民のみならずと協力し、文化財防火運動を展開しています。また、身近にある文化財が大事に受け継がれ、地域の文化財として未来へ引き継ぐ大切さを改めて感じる日ともいえます。

日新館資料群

新たに市指定文化財へ

江戸時代の日本有数の教育機関として全国にその名を馳せた藩校日新館。しかし、戊辰戦争の敗戦を経て、多くの会津藩の宝物・文物は新政府軍に没収・破却されてしまいました。そのため、実際に日新館の教育でどのような教材が用いられていたのかわからない部分が多くありました。

こうしたなか、この日新館資料群(80点)は、戊辰戦争後の戦後処理の際に新政府軍が日新館にかかわるものとしてまとめて没収したもののうちの一部分が現在まで伝わったものです。会津藩にまつわる文物という点で貴重なものであることから、市文化財保護審議会の審議を受け、平成24年2月20日に市の指定文化財となりました。



出前講座で知る文化財

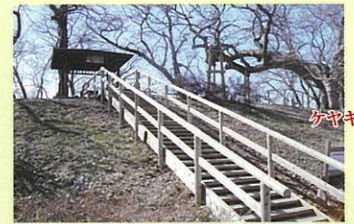


会津の歴史を知りたい、土器を見てみたい、文化財を散策したい、そうした歴史や文化財に関する学習会には、生涯学習出前講座をご利用ください。文化課職員が講座内容に合わせて解説します。

申込・問合せ先
生涯学習総合センター ☎22-4700

国指定天然記念物 高瀬のケヤキ

—樹勢回復をめざして
【神指町高瀬】



3ヶ年計画で取り組んできた樹勢回復の最終年度となりました。枝と枝が干渉し合い、ケヤキの成長を妨げていた原因の1つであるソメイヨシノの伐採、枝折れを防ぐ支柱の設置、土壌改良を行いました。

また見学者用の木道と木柵が完成しました。地面が踏み固められるのを防ぐことで、根の成長を促します。木道は四阿(あづまや)と繋がっていますので、訪れる際は、四阿やその南側の広場をご利用ください。貴重な文化財を守るため、皆さんのご協力をお願いします。



Q どうやってきたの？
A 今から約4万年前、磐梯山の噴火で猪苗代湖がせき止められ、湊地区の低地は湖となりました。その後、徐々に水が引いて赤井谷地は湖ではなくなり、乾燥することなく湿原として残りました。

Q これからの取組みは？
A 工事を行ったことによる変化



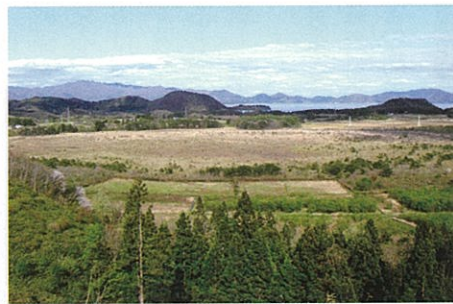
「天皇の歌碑」がある丘から、谷地の様子を見ることができます。

Q どこにあるの？
A 湊町赤井。近くに戊辰戦争の戸ノ口原古戦場跡や、昭和天皇の訪問記念の歌碑(通称天皇の歌碑)があります。

身近な文化財を知るための 赤井谷地沼野植物群落



Q 何が貴重なの？
A 約200種類の植物が自生し、そのうち38種は樺太と共通した北方系の植物で学術的にも貴重な生態系です。



自然学習の場として今後も情報を発信していきます。

Q 今までの保護対策は？
A 谷地の水が農業用水に使われていたことから乾燥化が進んだため、周辺の田を谷地に戻したり、指定地内の水路を外側に付け替えたりする工事を行いました。徐々に元の湿原の姿に戻ることが期待されています。

Q 今後の取組みは？
A 山の上から谷地全体を望んだり谷地の周りを散策したりすることで、成り立ちや特性、農業など人びとの営みとの関係などが学習できる場所としていく予定です。

文化力

POWER OF CULTURE

郡山遺跡 【河東町郡山】



奈良・平安時代の会津郡の役所跡といわれる遺跡。郡山集落の北、約500m地点を調査。



農業基盤整備に先立つ試掘調査。



集中して出土した土器。

昨年度に引き続き、地中に遺跡があるのか、どのくらい広がっているかを確認することを目的として行いました。

社田B遺跡では過去の人びとの痕跡は見つかりませんでした。一方、社田A遺跡からは、遺構や3,600点に及ぶ弥生土器や石器が見つかりました。

特に、設定したトレンチ(試掘坑)のうちの1つから2,600点に及ぶ土器が集中して出土しました。出土した土器は、文様を観察すると弥生時代中頃の時期に見られる特徴を持っています。

調査成果については現在検討中です。しかし、土器の出土状況から、土器が大量に見つかった一帯は土器捨て場で、その近くに集落が存在した可能性が考えられます。

※遺構…過去の人々が活動した痕跡のうち土地に跡が残っているもの。

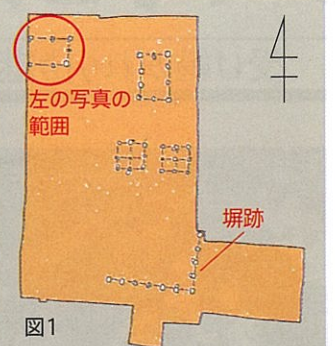


図1



青空のもと丁寧に進められる発掘調査風景。

上の写真は建物の柱跡が並んでいる様子です。この建物は、南北約4m、東西約6mありますが、東西方向は調査範囲の外側にも広がっています。当時としては大きな建物で、柱穴の中から出土した土器の年代から、今から約1,100年前の平安時代前期の建物と考えられます。

前年の調査でも、その周辺にいくつかの建物跡が発見されており、組み合わせると、図1のように配置されていたようです。堀に囲まれた中に、建物が規則的に並んで建てられていますので、ここには役所の中の1つの施設があったようです。図示した以外にも、多くの建物跡が見つかっており、建てられた時期も幅があることから、今後この施設の全体像を確認し、どのような機能を持っていたのかを検討する予定です。

東日本大震災～文化財被害・復興に向けて～



平成23年3月11日に発生した東日本大震災。会津若松市では震度5強を記録しました。文化財にも多くの被害がありました。なかも史跡若松城跡(鶴ヶ城)や名勝会津松平氏庭園(御薬園)では大きな被害がありました。

この二つの文化財を管理する市観光公社では、「いち早く再開し、復興に向けて動き出す」という思いのもと、仮復旧や安全対策に着手しました。そのため、今では安全に見学することができ、また、9月には震災復興支援として、国の選定保存技術団体である「文化財庭園保存技術者協議会」の会員が全国から集まり、御薬園で剪定技術の職人技を披露しました。

こうした取組みを出発点として、本格的な文化財復旧に向けて進んでいます。

- 1 若松城跡(鶴ヶ城) 本丸の東側では、石垣が崩落。
- 2 御薬園の建物「御茶屋御殿」では、多くの壁が落下。
- 3 鶴ヶ城内茶室「齋園」の壁にひび割れが起こる。
- 4 揺れの方向により回転した御薬園の標石。
- 5 倒壊した御薬園の雪見燈籠。
- 6 燈籠は23年度中に復旧した。
- 7 9月に行われた庭園協議会の技の披露。

新島八重と松平容保

平成25年NHK大河ドラマで主人公となる「新島八重」。八重は、戊辰戦争籠城戦の際、主君に仕える心構えなどを説いた「日新館重心訓」を心の支えにして働いたと伝えられ、藩主に対して固い忠誠心を持ち続けました。

この会津藩の激動期に八重を含め、会津藩士とその家族の忠誠心を引き受け続けた九代藩主松平容保公は、院内御廟の一面に埋葬されています。



院内御廟は、二代藩主保科正経公から九代藩主松平容保公までの歴代藩主が埋葬されています。その敷地が15畝を超える大規模な史跡です。市では、崩れた石垣の修復や階段の改修などを行い、文化財の保護につとめてきました。

江戸時代の土木工事技術を随所に見ることができます。また、早春に響くキツキツの巣作りの音や6月頃に咲き誇るシャガの群生など自然観察にも最適です。

昨年9月には院内御廟散策会を開催し、史跡を掃除しながら御廟の歴史を学びました。掃除をすることで御廟の大切さと歴史をより身近に感じることができました。

ごびょう 院内御廟に 出かけよう

国史跡 会津藩主松平家墓所

